OF050503

【OF-05】
** 2018年 4月（第7版）
＊2016年 6月（第6版）（新記載要領に基づく改訂）

医療機器承認番号:20900BZY01009000

医療用品4 整形用品
高度管理医療機器 体内固定用ピン（JMDNコード：32854003）
＊（単回使用骨手術用器械 JMDNコード：70962012）
＊（骨手術用器械 JMDNコード：70962001）
＊（創外固定器 JMDNコード：70961000）

オーソフィックス創外固定ピン(滅菌済)

再使用禁止

＊【禁忌・禁止】

〈適用対象（患者）〉

1. 適切な術後管理を行えないような心理、精神状態の患者や指示を遵守する能力のない患者[体重の負荷もしくは過度の運動により不具合発現の可能性が高まる。]
2. 本品の材質に対するアレルギーのある患者[有害事象が発現するおそれがある。]
3. 敗血症などの全身性感染患者[感染巣の治癒が得られずインプラントの抜去が必要となる場合がある。]
4. 本品適用箇所に感染巣を有する患者[感染巣の治癒が得られずインプラントの抜去が必要となる場合がある。]

〈使用方法〉

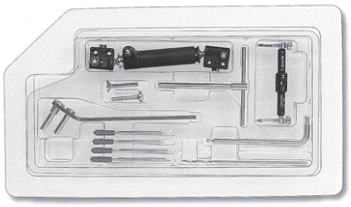
1. 再滅菌、再使用禁止

【形状・構造及び原理等】

** 〈形状〉

以下に本品の構成の例を示す。本品の製品名、規格等は、カタログ等を参照すること。

ラジオルーセント手関節固定器



(※)を付した構成品は再使用禁止。

カタログ番号	製品名	個数
36000	Base kit radiolucent (※)	1
36008	C-D Unit standard body (※)	1
36017	アレンレンチ 4mm	1
13621	DRILL GUIDE	2
1355001	ドリルビット D2.7MM/L127MM	1
13620	DRILL SLEEVE	1
M210	Tレンチ ペニッヒ/ミニレールスクリュー用	1
36104	セルフドリリングコーティカルスクリュー D3.3-3.0MM/L70-20MM (※)	2
36105	セルフドリリングコーティカルスクリュー D3.3-3.0MM/L80-25MM (※)	2

〈組成〉

セルフドリリングコーティカルスクリュー：ステンレス鋼(ニッケル、クロムを含む)

〈作動・動作原理〉

骨折部位等に経皮的に創外固定ピンを通常複数本刺入し、それらのピンを創外固定器によって外的に固定もしくは骨延長を行う。

【使用目的又は効果】

〈使用目的〉

本品は、骨の固定又は骨延長等を目的に使用する。また本品は下記の医療機器の構成品を組み合わせて滅菌したセットで供給する。

構成品の使用目的又は効果について、承認及び製造販売届出内容に係わる事項は当該品目の承認書及び製造販売届出書に記載のとおり。

一般的名称	販売名	承認・届出番号
単回使用骨手術用器械	オーソフィックス 創外固定器専用手術器具	22000BZX01569000
創外固定器	オーソフィックス 創外固定器	27B1X00116000123
創外固定器	エクスカリバー 創外固定器(滅菌済)	27B1X00116000125
創外固定器	オーソフィックス プリフィックス固定器	27B1X00116000170

【使用方法等】

〈使用方法〉

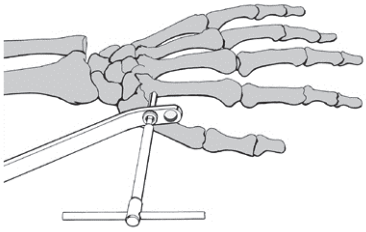
** 1. 使用前の注意事項

(1) 本品は、滅菌品であるため、使用前に製品包装に不正に手が加えられた形跡、あるいは損傷や水分の混入がないか確認すること。開封後は無菌的に操作して速やかに使用すること。

(2) 再使用可能品を再使用する場合、手術前に予め、【保守・点検に係る事項】に示す滅菌条件を参考に滅菌バリデーション等を行い、無菌性保証が確保された条件で滅菌処理を施すこと。(滅菌方法については、滅菌装置の添付文書［取扱説明書］を必ず参照すること。)

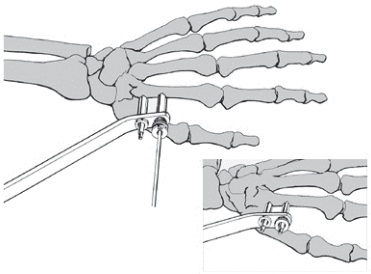
2. 基本的な本品の使用方法

(1) 固定器は橈側もしくは前額面から約 45 度の角度をつけて装着する。第2中手骨基部(結節部への据広がり部)に約3cmの切開を行い、軟部組織を剥離し、骨に至る。スクリューガイドの長さを調節し、骨軸中心に固定し、ドリルガイドを挿入して 2.7mm ドリルでドリリングします。T レンチを用いてスクリュー(L70/20mm)を、対側骨皮質を 1-2mm 程度貫くまで挿入する。

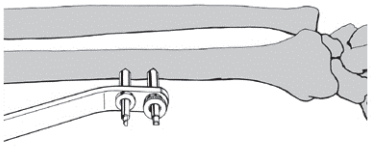


手術手技書を必ず参照すること

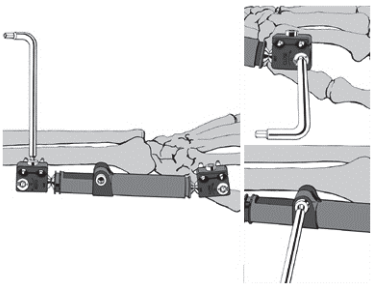
(2) 同様の手技で2本目のスクリュー(L70/20mm)を挿入する。



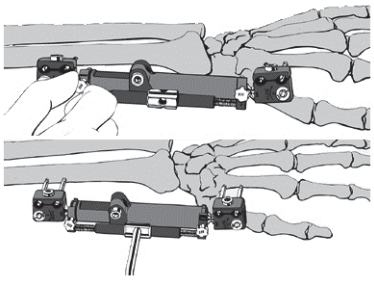
(3) 次に橈骨へスクリュー(L80/25mm)を挿入する。固定器本体を一時的に中手骨スクリューに取り付けて橈骨スクリューの挿入位置を皮膚上にマーキングした後、固定器本体を取り外して約3cmの切開を行う。中手骨側と同様の手技でドリリングを行い、スクリューを2本挿入する。



(4) X線透過性ではないセントラルボディロッキングナットが骨折部に重ならないように注意して固定器をスクリューに取り付ける。クランプカバーロッキングスクリューを付属の4mmアレンレンチで固定する。骨折部を整復し、カムとセントラルボディロッキングナットを付属の4mmアレンレンチで固定する。



(5) 骨折部に従手的に牽引した以上に牽引が必要な場合、コンプレッション/ディストラクションユニットを用いて牽引を行う。



** 〈組み合わせて使用する医療機器〉

販売名又は名称	承認・届出番号
オーソフィックス創外固定器専用手術器具	22000BZX01569000
オーソフィックス創外固定器	27B1X00116000123

〈使用方法等に関連する使用上の注意〉

＊1. 本品を使用する際は必ず当社推奨の手術器械を使用すること。また、パワーツール等は含まれていないため、必要に応じて別途用意すること。[〈組み合わせて使用する医療機器〉の項参照]

＊2. 使用する前に創外固定器の部品や手術器械の外観確認を行い、摩耗・損傷・変形がないことを確認すること。また、創外固定器が適切に動作または固定できることを確認すること。

＊3. 本品の取り扱いは注意深く行うこと。[キズや窪みが生じると、製品の機械的強度が低下するおそれがある。]

＊4. 骨折部と近接するスクリューの距離は、できるかぎり小さくし(ただし、2cm以上)、この距離を両側で等しくすること。

＊5. スクリューを挿入する部位の皮膚や筋膜が、スクリューの挿入で引っ張られないように十分に切開を加えること。[固定中の痛みや不快感または筋肉の動きが制限されるおそれがある。]

＊6. ドリリングにパワーツールを使用する場合は、回転数を500-600rpm の範囲に調節すること。

7. 骨が硬く肥厚しているためにドリリングに時間を要する場合は、無理にドリリングを継続せず、適宜ドリルを抜いてドリルに付着した骨屑を除去したり、注水して穿孔部やドリルを冷やしたりする等、慎重にドリリングを行うこと。[無理なドリリングを続けると、熱による骨や軟部組織への障害が発生するおそれがある。]

8. スクリューを挿入する際は、パワーツールを使用しないこと。[挿入トルクの増加による本品の折損や損傷、発熱による骨や軟部組織への障害、または、対側骨皮質の損傷などのおそれがある。]

＊9. スクリューを挿入する際は、過度に速く挿入しないこと。[発熱、挿入トルクの増加によりスクリューが破損するおそれがある。]

*10. スクリューは小さい骨片または挿入が困難な骨片から挿入すること。

*11. スクリューの挿入中に、骨孔との挿入軸のずれや骨質またはその厚みなどにより過大な抵抗を感じた場合、スクリューを一度抜去し、骨孔を生理食塩水で洗浄してから、正しい経路に沿って再挿入すること。また、必要に応じて、再度ドリリングを行うことも推奨する。[スクリューの挿入を継続するとスクリューが破損するおそれがある。]

12. 骨に挿入したスクリューを逆回転させて挿入長の調整を行わないこと。[先細りテーパー形状であるため、スクリューを戻すと緩みの原因となる。]

*13. スクリューは、スクリューガイドとテンプレートまたは使用するクランプを使用して、並行に挿入すること。

*14. 術後の腫脹や清拭を考慮して、固定器と皮膚を十分に離して固定器を装着すること。ただし、固定器と骨の距離が安定性に影響を与えることに留意すること。

*15. 手術中および手術後に、固定器の安定性を確認すること。

【使用上の注意】

1. 使用注意(次の患者には慎重に適用すること)

(1) 骨質が脆弱な患者[骨癒合に必要な十分な固定性が得られないおそれがある。]

(2) 骨が硬く肥厚している患者[刺入時の熱による骨や軟部組織への障害やスクリューの挿入トルクの上昇によりスクリューが破損するおそれがある。]

＊(3) 肥満の患者[固定器やスクリューに過度な負荷がかかり、破損や変形が生じるおそれがある。]

＊(4) 活動性の高い職業または生活の患者[固定器やスクリューに過度な負荷がかかり、破損や変形が生じるおそれがある。]

＊(5) 衰弱した患者[体重をサポートする補助具を使用することが困難で、リハビリ時に固定器やスクリューに過度な負荷がかかり、破損や変形が生じるおそれがある。]

＊(6) 高齢者[「高齢者への適用」の項参照]

＊(7) 糖尿病などの生活習慣病患者、慢性関節リウマチ、喫煙患者、慢性的なステロイド、抗炎症薬の使用患者[骨形成が阻害され骨癒合が遅れることにより不具合発現の可能性がある。]
＊(8) てんかんの患者[医師の指導に従えず、術後管理が十分に行えないことにより不具合発現の可能性が高まるおそれがある。]
＊(9) 以下の疾患においては、創外固定に習熟した専門的な医師が使用することを臨床上適切と判断した患者にのみ使用すること。
1. 重度の骨粗鬆症患者[十分な骨固定が得られないおそれがある。]
2. HIV陽性患者[感染が生じるおそれがある。]
3. 重度の糖尿病で管理の不十分な患者[感染が生じるおそれがある。]

2. 重要な基本的注意
(1) 本品を使用する患者に対し、固定器の使用方法やメンテナンスやインプラント挿入部位のケアの方法、考えられる不具合(初期症状の持続や再発、固定器の部品や全体の交換のための再手術など)の可能性について書面で十分に説明を行うこと。
＊(2) スクリューの緩み、固定器の状態および骨折部のギャップなどを定期的に観察し、必要に応じて、固定器の調整など必要な措置を講じること。[過度な骨片のギャップを残すと骨硬化が遷延する可能性がある。]
＊(3) 新鮮骨折に対する圧迫(コンプレッション)は行わないこと。]
(4) 本システムはMRIに適合するように設計されていないことに留意すること。
＊(5) 本品を、頚椎、胸椎または腰椎の後方要素(椎弓根部)への設置または固定に使用しないこと。[意図した使用方法ではなく、期待する効果が得られないおそれがある。]

＊3. 不具合・有害事象
本品の使用において、患者の状態、骨折部の形態および骨癒合の状態などにより次のような不具合や有害事象がまれに現れることがあるので、異常が認められた場合は直ちに適切な処置を行うこと。
(1) 重大な不具合
1. 本品の破損、変形、緩み、移動
(2) 重大な有害事象
1. 手術侵襲による血管、神経、腱、骨および軟部組織の損傷
2. 再骨折、遷延治癒、偽関節、矯正損失、骨形成不全、変形癒合
3. 浮腫、腫脹、コンパートメント症候群
4. 深部感染、骨髄炎、化膿性関節炎などの感染症
5. スクリューの材料へのアレルギーまたは組織反応
6. 静脈血栓症、肺塞栓、心筋梗塞、無血管性壊死、血栓性静脈炎、創傷部の血腫、無血管性骨壊死を含む心血管障害
7. 骨量または骨密度の減少
8. スクリュー挿入部周辺の組織壊死
9. 適用部位の骨や周囲組織の穿孔時の熱による障害
10. 成長期における骨端線損傷に伴う成長異常
11. 四肢ディスメトリア
12. 再手術
(3) その他の有害事象
1. スクリューの挿入部の表層感染
2. 骨延長期間中の延長仮骨部の早期癒合
3. 軟部組織の緊張
4. 関節拘縮、脱臼、亜脱臼、可動域制限
5. 痛み、不快、違和感
6. 外科手術によって生じうる術中の大量出血や麻酔に内在する危険性などの合併症を伴う危険性
7. 固定器による皮膚の圧迫
8. 脚長差
9. スクリュー挿入部での骨溶融

4. 高齢者への適用
高齢者は一般に骨量および骨質は十分でないことが多いので、慎重に使用し、治療の経過にも十分に注意すること。
5. 妊婦、産婦、授乳婦及び小児等への適用
＊(1) 小児患者に本品を使用する際には、成長軟骨帯を損傷しないよう十分注意すること。
(2) レントゲン、透視撮影時のX線照射が体内の子供に影響を与える可能性を十分に考慮すること。

【保管方法及び有効期間等】
1. 保管上の注意
高温多湿及び直射日光等を避けて保管すること。

＊〈有効期間〉
5年間[自己認証による]
** 本品のラベルの使用期限を参照すること。

**【保守・点検に係る事項】
〈使用者による保守点検事項〉
再使用可能品は、使用後、以下の方法にて洗浄・点検および滅菌を行うこと。
1. 洗浄・滅菌およびメンテナンスの注意事項
(1) 使用後は、速やかに洗浄を行い、血塊等を除去すること。[血液や分泌物などの乾燥した有機残留物が、本品を腐食させる原因となるおそれがある。]
(2) 本品にハロゲンイオン(臭素イオン・ヨウ素イオン・塩化物イオン)を含む生理食塩水や消毒剤が残存することのないように注意すること。[ハロゲンイオン(臭素イオン・ヨウ素イオン・塩化物イオン)、特に塩化物イオンの曝露によって、ステンレス鋼の不動態皮膜に孔食が生じるおそれがある。]
(3) 滅菌蒸留水ですすいだ後、吸収性のある布、ドライヤーまたは乾燥用キャビネットを使用して乾燥させる。
(4) 滅菌前に本品の外観検査および機能検査を実施し、損傷や変形などの異常がないことを確認すること。[金属表面の損傷は強度の低下や腐食の原因となるおそれがある。]

詳しい洗浄方法については、「オーソフィックス創外固定器手術手技書:Basic Consideration」を参照すること。

2. 滅菌方法及び滅菌条件

方法	サイクル	温度	時間
高圧蒸気滅菌	プレバキューム	132℃～135℃	10分以上

＊【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】
製造販売元
日本メディカルネクスト株式会社
電話番号：06-6222-6606
製造元
オーソフィックス社(イタリア)
Orthofix S.r.l.